

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第163回

鈴鹿高専の活動報告



日下隆司  
(鈴鹿工業高等専門学校教養教育科教授、国際交流室長)

常州情報職業技術学院から11名を招へい、ものづくりや工学実験で交流

○充実した交流プログラム

鈴鹿工業高等専門学校は2006年に中国常州情報職業技術学院と学術交流協定を締結して以来、隔年で相互に学生の派遣と招聘を行なってきた。2018年度は、2016年度に続いて2度目の科学技術振興機構『さくらサイエンスプラン』の採択を受けて、常州情報職業技術学院との交流プログラムを実施した。

常州情報職業技術学院は中国・江蘇省の南部に位置する常州市に常州秦電気機械学校として1962年に創立された。現在はネットワーク通信工学部、ソフトウェアスクール、電子電気工学部、経済経営学部、機械電気工学部、外国語学校そして芸術デザイン学科の7専門学科から成り立つ公立単科大学である。今回の交流プログラムは、2018年7月2日から9日まで常州情報職業技術学院から学



電気電子工学科で「ものづくり」体験

生10名および教員1名を招聘した。『さくらサイエンスプラン』に採択されたことでさらに充実した交流プログラムを実施することができた。常州情報職業技術学院の学生たちの日程は、慌ただしい。来日前の週

| プログラム |                                   |
|-------|-----------------------------------|
| 7月2日  | 到着。中部国際空港でお迎え                     |
| 7月3日  | 入寮オリエンテーション、校内見学<br>歓迎式典、校内施設設備見学 |
| 7月4日  | ものづくり体験、授業見学<br>鈴鹿市長訪問、茶道体験、歓迎交流会 |
| 7月5日  | AGF鈴鹿工場見学、化学実験体験、授業見学、クラブ見学       |
| 7月6日  | 鈴鹿市伝統産業会館で伊勢型紙体験<br>修了証書授与、市内見学   |
| 7月7日  | ミキモト(御木本)真珠島見学、鳥羽水族館見学            |
| 7月8日  | 名古屋市科学館見学、名古屋城見学                  |
| 7月9日  | 中部国際空港でお見送り                       |

末に学校の後期日程が終了し、その2日後、7月1日には参加学生全員が日本語検定試験を受験した。そして翌日2日に常州から約3時間バスに揺られ、上海浦東国際空港へと向かい、そこから中部国際空港へと飛び立った。到着は夜だったこともあり、そのまま空港のある常滑市に宿泊し、翌朝、3日に鈴鹿市へ移動した。彼らにとっては、いよいよ目まぐるしい日本での交流プログラムが始まる。

○授業聴講や学生実験の見学等

まず鈴鹿高専到着後すぐに学生寮で入寮オリエンテーションを受けた。その後は、中国語を含む授業聴講、及び学生実験の見学などを精力的に行った。今回訪問した学生たちは日本語の成績が優秀な学生を選抜しただけあって、中には中国での日本語スピーチコンテストで特等を取った学生も含まれていた。その学生が校長訪問の際に日本語でスピーチを披露するとともに、各学生が流暢な日本語で自己紹介を行った。これまでは目先のプログラムを消化するだけで精一杯であったが、今回の交流プログラムでは本校の日本人学生との交流の機会をできるだけ多く設けたいと考えていた。まずは、その一環として、放課後に翌日の本校学生との交流会に向けた顔合わせを行い、近隣のスーパーへの買い出しや食堂での食事方法を教えてもらうなど、形式張



末松鈴鹿市長(前列中央)を表敬訪問



化学実験に参加



名古屋市科学館を見学



修了証書授与式後の集合写真

○日本への理解を深める  
慌ただしいながら、今回は随所に本校学生との交流の機会を設けることができた。高専が得意とする「ものづくり」や工学実験を通じて、日本の科学技術の在り様の一端を垣間見、そしてまた、自分たちとは変わらない等身大の日本人学生の姿も知ることができたと思う。

実際にアンケートよれば、彼らは本校で充実した時間を過ごし、日本への理解が深まったようだ。常州信息职业技术学院の一行は、日本での思い出と共に翌9日に帰国した。

らない交流を行った。  
4日の午前中には電気電子工学科でのものづくり体験を実施した。担当教授の指導の下、電気工学科の学生と一緒に簡単な電気回路を作成した体験は日本が得意とする「ものづくり」を知るきっかけになったのではないかと思う。続いて、昼食後には3年生物応用化学科の「特活」の授業(高校での「学活」の一環として異文化交流をテーマに中国入学生と本校学生の交流を行った。そこでは、お互いの文化の違いに驚くのではなく、むしろ、国は違っても、アニメやゲームなど同世代の若者が共有する文化の多さがお互いの距離を縮めていったように感じた。

その後、鈴鹿市役所へと赴き、末松則子市長を表敬訪問した。日中両国の文化についてなかなかやかな雰囲気で見聞交換した時の様子は、中日新聞や地元紙、伊勢新聞に掲載された。帰校後の茶道体験では、茶道の作法を学び、慣れない手つきでお茶を立てた。日本の伝統文化の一端に触れた後、本校学生25名と教職員10名を交えた交流会を実施した。両校の紹介後、くじ引きによって中国入学生と日本人学生とでグループを作り、打ち解けた雰囲気

の中でゲーム、食事そして会話を楽しみ、互いの友好と理解を深めていった。  
5日は午前中「AGF鈴鹿」でコーヒー等の製造工程を見学した。午後からの化学実験体験では、担当教授による化学マジックが披露され、その原理についての説明がなされ、実際の実験に参加した。その後は、国語や歴史などの教養科目の授業見学や施設見学を行い、放課後には、弓道、剣道、柔道といったクラブ活動を見学した。

6日の午前中は、材料工学科の実験に参加した。その後、鈴鹿伝統産業館に移動し、伊勢型紙の体験を行った。午後には、本校でのプログラム修了を受けて修了式が執り行われ、各学生に修了証書が授与された。

#### ○日本人学生を交えて学外研修

7日、8日両日は学外研修を行った。従前の中国人学生だけの実地見学から、今回は本校学生に参加の呼びかけを行い、日本人学生を交えた形での研修を行った。

7日は、ミキモト真珠島並びに鳥羽水族館を見学した。特に鳥羽水族館ではバックヤードツアーを行い、自然科学分野での興味も喚起された様子であった。

8日の午前中は名古屋科学館を見学した。参加型の施設に興味津々で、参加学生は身近に使われるものの背景にある科学技術や原理についても興味を持ってもらえたようだった。そして午後には「名古屋城」や「本丸御殿」を見学した。